

「**噺家の匂い**」が伝統を守る

江戸噺家

古今亭文菊

素敵な着物の着こなしにも注目です!

スタッフ=鈴木史子



よくお坊さんに間違えられるという文菊師匠。飄々とした印象ですが、お会いすると、真摯に落語と向き合う真面目なお人柄。そんな師匠が高座に上がると、ドキッとするとほど華があるんです。底知れない魅力に、目が離せません。

頭の中に映像として

パートと浮かんた衝撃

—落語家になられたきっかけは?

高校で進路を考えていた時、「サラリーマンは嫌だな」と思っていました。門戸の広い演劇の世界に入れば、新しい道が開けるんじゃないかって、大学に進み劇団に入ったんです。でも、やりたいことは分からなかった。そんな時、高校時代にテレビでたまたま見た落語番組を思い出しました。おじいさんが喋っているだけに、頭の中にその情景が映像としてパートと浮かんできたんです。衝撃でした。そのおじいさんが、圓菊師匠。落語というものを全然理解していなかったのですが、「落語でダメなら、普通に勤めしよう」と決意して、「東京かわら版」を頼りに圓菊師匠を探しました。

落語家は 生身の人間を見てもらう職業

—そして圓菊師匠の門を叩いたんですね。

入門はできたんですが、その後が大変でした。今までの生き方を全部リセットさせられるんです。「前座のくせに意見を述べるなんて、ふてえ野郎だ」って。20年も生きてるわけだから自分なりの考えがあるんだけど、「落語家はそれを一旦崩さなきゃいけない。地を這うような苦勞が必要なんだ」と、教えられたんだと思います。おかげで自分を丸裸にできました。落語は生身の人間を見てもらう芸です。自分を装うとか、面白い噺を並べれば良いなんてものではない。

—その圓菊師匠が、文菊師匠の真打昇進1か月後に亡くなられました。

それまでは毎日のように、師匠の小言に追い込まれていました。しかしそれは、落語家に必要な自分の内面と向き合うという試練を与えられていたんだと思います。自分と本気で対峙してくれる人を失い、途方にくれました。そんな時、不安な気持ちを補ってくれたのが、意外にも結婚だったんです。

自分に自信があれば、どんな状況も受け入れられる

結婚して相手と深く関わるようになって、自分の中の解決していない問題に気付かされるんです。例えば奥さんと喧嘩して、「おめえがそうしねえから、ダメ

なんだ」と言ってしまうこともある。でもそれって、自分の責任で物事を発信してないんですよ。人のせいになっている。落語で「今日は客が良くなかったからウケなかった」って言うのも、ただの責任転嫁です。自分に自信があれば、人がどう感じようと受け入れることができる。落語家に必要なのは「私はこうなんだ」という芯を持つことだと思います。それに気付けたのは、奥さんのおかげでした。結婚は、魂の修行ですよ(笑)。

—古典に真摯に取り組まれています。が、師匠にとつての落語とは?

古典といつても、昔からある噺っていうだけです。ただ、古典をやるからには、お客さんを江戸の世界に連れて行ける空気感を作り出せなくてはいいけない。その

ためにも、普段から落語の世界に出てくるものに触れておくことは、大切かも知れません。歌舞伎とかお座敷遊びとか。でも一番大事なのは、師匠のお家に通うことなんです。入門してから4年ほど、毎日朝からずっといて、掃除しておまんまこしらえて、師匠と一緒に食べました。それは「見意味がなさそう」で、実は「噺家の匂い」を身体に付けるために必要なこと。圓菊師匠は志ん生師匠の元で、昔ながらの修行をしました。現代人から見たら遺物みたいな人でしたよ(笑)。しかし、匂いを伝えていかないと、落語という伝統文化が無くなっちゃうんです。そういう土台を作って、自分の好きなものを足していくと、一人の落語家が出来上がるんだと思います。



江戸風俗を知れば、**文菊落語**がもっと面白い!

春日井市図書館で読める

江戸を知る 書籍ベスト3

司書=田邊涼太(春日井市図書館)



1 「図解 江戸の暮らし事典」

監修=河合敦 / 学研



長屋ってアパート?金一両つて大金なの?よく聞くけど知らない江戸の暮らしをイラストを使ってわかりやすく解説しています。

2 「江戸の庶民信仰」

山路興造 / 青幻舎



神様、仏様、妖怪にお化け……。昔の人はその存在を信じていました。だから信仰は生活の一部。これを知らななきゃ江戸っ子じゃない!

3 「江戸に学ぶ粋のこころ」

小山観翁 / グラフ社



江戸っ子は粋を大事にしているって言いますよね。でも、粋って何でしょう?この本を読んで、粋で鯉背な人になつてみませんか?

第86回かすがい芸術劇場
古今亭文菊 独演会
2017/2/19(日) 14:00
@文化フォーラム春日井・視聴覚ホール

詳細情報は、裏表紙で **Ticket Guide**